

2017/11/12

## 「本当の贅沢をしよう」

多くの日本人は、つつましさを美德とし、贅沢をしてはいけないという思い込みがあります。

贅沢とは、『①衣食住や趣味、娯楽などに、他から見れば、「無駄遣いだ、分に過ぎている」と思われるほどの、多くのお金をかけること。②望みうる最高の条件が満たされ、このうえもない満足感にひたれる、自分にとって願ってもないこと。またそういう状態。』と辞書は教えています。

これらの意味に照らし合わせるならば、私達はまさに贅沢をしなくてはいけない者ではないでしょうか。私達は自分の分というものを、本来の価値よりも、どうしても低く見積もってしまいがちだからです。私達の身分とは、いったいなんなのでしょう。

「あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。」

(ガラテヤ 3:26)

「これは律法の下にある者を贖い出すため、その結果、私たちが子としての身分を受けられるようになるためです。」(ガラテヤ 4:5)

私達は神の子どもです。この世界の造り主、王の王の子どもです。その本来の身分を取り戻させるのがイエス・キリストの十字架の贖いによる救いなのです。

なぜ私達が神の子と呼ばれるのか、それは、人は神のいのちを分けて造られているからです。すべての生き物の中で、人間だけが神を求めるのは、私達のいのちが、自分は神に造られたと知っているからです。ところが、私達はその身分に気づかず、自分は価値の低い者だと思い違いをしています。そこで、神様は私達に神の子の身分を取り戻させようとして、贖い出してくださいました。ですから、私達は、神の子の分にふさわしいものを求めて良いのです。それは、いったい何なのでしょう。

放蕩息子のたとえ話の中で、兄は、放蕩の限りを尽くした弟に、父親がぜいたくをさせているのを見て腹を立てました。この時、兄は、父親に「私は一生懸命お父さんに仕えてきたのに、子ヤギ一匹くださったことがありません。」と言いました。つまり、このお兄さんにとっての贅沢とは、子ヤギ一匹だったということです。

私は、これを「セコイ贅沢」と呼びます。多くの人が求めているのは、このセコイ贅沢です。人が持っているものを見ては、「それが手に入ったら私だって幸せだったのに」と、しょっちゅう人と自分を比べて、嘆いてしまいます。それは、本当の贅沢がわかっていないからです。

たとえ話の中の兄も、本当の贅沢がわかっていませんでした。この兄に対して、父親は「お前は私の子で、私のものは全部お前のものだ。」と語っています。兄は、父のものを自由にしているなどと考えたこともありませんでした。だから、子ヤギ1匹などというセコイ贅沢を求めたのです。しかし、父親は「あなたは私の子なのだから、私のものは自由に受け取って

使って良いのだ」と言っています。

私達も同じです。神様は、「私のものをすべてあげるから受け取りなさい」と言っておられます。それが本当の意味の贅沢です。私達は神の子ですから、神のものは自由に受け取って、自由に使って良いのです。あなたはこのことに気づかず、子ヤギ一匹でいいと言っていないでしょうか。

## ■神が与える贅沢

### 1. まことのいのちを受け取る

この世界の何を受け取っても、この世でのいのちが尽きればそれで終わりです。本当の贅沢とは、永遠のいのちを受け取ることです。永遠のいのちを受け取らなければ始まりません。

「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。」

(マタイ 16:26)

私達が求めるべき本当の贅沢は、永遠のいのちです。しかも、神はそれをただでくださるのです。ただで神のいのちを受け取ること、それが、信じるだけで救われるということです。

信仰とは、一種の冒険です。初めは、誰もが、大丈夫だろうかという不安を抱くものです。しかし、大丈夫です。信じる一步を踏み出した人は、全員が永遠のいのちを得、こうしてキリスト教は全世界に広まりました。神が下さるまことのいのちを受け取りましょう。

### 2. いのちの冠

「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。」(ヤコブ 1:12)

神の永遠の契約は、二つあります。それは、いのちと平安です。神様は、永遠のいのちをくださるだけでなく、神様を信頼すればするほど、結びつきが強くなればなるほど、平安で満たされるようになるのです。

神のいのちで造られている私達の魂は、神のいのちとつながることを求めます。私達が求める神は、自由な方ですから、私達の魂は、本当は自由を求めています。しかし、やがて滅びる制約された世界には、自由がなく、神と結びつくこともできません。そこで、人は、神に代わるものを求めて生きるようになりました。それは、地位や名誉や富など、一人一人さまざまですが、共通しているのは、人から良く思われたいということです。この地上では、誰も神と結びつくことができない以上、そうやって生きるしかなかったのです。しかし、そ

れは所詮偽物で、いつかは失われるものであり、どんなに結びついたところで、心に平安は得られません。

本当は神を求めているのに、それに気づかず、人々は今も別のものを求めています。そして、人類がいろいろなものを求めてきた結果、クリスチャンになってからも、それらを手放すことができず、神に近づくことを妨げています。魂は神を求めているのに、間違ったものを手に入れてしまったため、なかなかそれを手放せないのです。

手にしたものを手放すには、試練を通るしかありません。そこに神様の深い愛があります。私達は、何かを手にして安心する時、同時に、それを失ったらどうしようと不安になるものです。神様は、それを静観なさいます。それが試練です。見えるものにしがみつこうとすればするほど、試練にぶつかります。

「試練に耐える」とは、我慢することではなく、自分自身の不安と向き合うという意味です。見えるもので幸せになろうとしたのに、手に入れたものを見つめると、絶望しか見えないことに気づきます。そこには幸せがないと、その絶望に気づくことができれば幸いだと聖書は教えています。それは、本当に絶望すると、神に助けを求めるようになるからです。神が差し伸べている手を握るしか、不安から逃れる道はないと気づくからです。

信仰には、絶望する勇気が必要です。絶望しなければ、神にしがみつくとはいえないからです。ですから、信仰とは冒険なのです。

この世の見えるものを握れば握るほど、争いが起き、つらくなることに気づいたら、私達はそれを手放すことができるようになり、神に心を向けることができるようになります。こうして、魂が本当に求めているものに気づき、本物に近づくことができるようになります。

私達の魂は、神を求めるように造られていますから、神に近づくほど、喜びで満たされます。これが「カナンに連れて行く」という神の約束であり、これを手にすることが本当の贅沢なのです。

### 3. 愛すること

これは日々味わえる贅沢です。

贅沢とは、『望みうる最高の条件が満たされた状態』という定義があります。神と同じ命で造られた私達は、本当は愛することを求めているのです。神様が「神を愛し、人を愛しなさい」と教えているのは、それが私達の本来の姿だからです。ところが、私達は日々愛されることを求め、人の歓心を買おうとして生きています。だからつらいのです。

「いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。」(Iヨハネ 4:12)

この地上では、誰も神の愛が見えないけれど、愛することで神の愛を味わうことができるのです。あなたが人を愛するなら、神の愛があなたの内にまっとうされるとは、なんと贅沢なことでしょうか。

それなのに、私達は愛されることが贅沢だと思って求めているのです。

この世の人々は、愛されることを求めています、それは少しも贅沢ではありません。相手の歓心を買おうとすると、思うように愛されないことに不満を抱いて生きるようになるものです。愛することが日々の贅沢です。愛する者になりましょう。

放蕩息子の兄は、弟を裁いて文句を言いましたが、本当の贅沢は弟を受け入れることだったのです。人を愛することが本当の贅沢です。これに勝る贅沢はありません。これに勝る喜びはありません。

面白くもなんともないセコイ贅沢はやめて、本当の贅沢を求めましょう。